

北区政策提案協働事業申請書

平成 29 年 8 月 21 日

東京都北区長 殿

(提案団体)

(ふりがな)  
団体名

NPO法人プログラミング教育研究所

所在地又は住所

〒 115-0044

北区赤羽南 1-11-7-1201

代表者名

理事長 伊藤 功一

印

北区政策提案協働事業実施要綱第4条により、下記のとおり、北区政策提案協働事業について提案します。

記

- 1 提案事業名 プログラミング教育の啓発事業
- 2 団体概要 別紙団体概要のとおり
- 3 事業内容 別紙実施(継続)計画書のとおり
- 4 収支概要 別紙(継続)収支予算書のとおり
- 5 添付書類等
  - (1)団体の設立目的、運営方法などを記載したもの(設立趣意書、定款、会則、経理規定等)
  - (2)団体構成員名簿
  - (3)団体の年間活動計画書及び年間収支予算書
  - (4)過去2年間の税務申告等の写し(収支計算書、収支内訳書、決算書等)
  - (5)団体の活動経歴(活動報告書、総会資料等)
  - (6)活動内容に関する書類
  - (7)事業申請の承認に関する理事会等の記録
  - (8)ヒアリング希望日程表

第1号様式の3(第4条関係)

団 体 概 要

団体連絡先等	〒 115-0044 北区赤羽南1-11-7-1201			
	担当者氏名： 伊藤 功一			
	電話： 03(4540)7557 携帯電話： 090-8494-5524		FAX： ( )	
	Eメール： kito@j-code.org			
	ホームページ： http://J-CODE.ORG			
設立年月日	2017年4月4日		構成員数	10人
団体の目的 (ミッション)	この法人は、将来を担う子どもたちや一般市民にプログラミング教育、コンピュータサイエンスを普及、推進する事業を通じて、プログラミング教育の意義や在り方を提言し、健全な情報化社会の発展に寄与することを目的とする。			
提案事業に対する団体の活動実績	<p>無料のプログラミング教育教材として、CODE.ORGなどの日本語化を行い、地域でプログラミング教室を開催してきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北区赤羽文化センター定例教室(毎回約20名参加)</li> <li>・ 赤羽北区民センターでの定例講座開始</li> <li>・ 八幡小学校の夏休みプログラミング教室(28名×3日)</li> <li>・ 桐ヶ丘中学校の秋講座(予定)</li> <li>・ 桐ヶ丘高校からのボランティア受け入れ(予定)</li> </ul>			
協働事業等実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤羽文化センター子供ひろば(20名×3回)</li> <li>・ 赤羽文化センター区民協働講座(応募多数により抽選20名×3日)</li> </ul>			
財政状況	区 分	項 目	決 算	予 算
	収 入	事業収入額		120,000
		その他の収入額		250,000
	支 出	事業支出額		240,000
		その他の支出額		60,000

## 実施計画書

提案事業名	プログラミング教育の啓発事業
事業目的	<p>1 解決する地域課題の内容</p> <p>2020年からプログラミング教育が小学校で必修化されます。社会の仕組みがインターネットを介して大きく変化するなか、世界の多くの国々がプログラミング教育に取り組みはじめています。新学習指導要領は、プログラミング教育を「子供たちが将来どのような職業に就くとしても時代を越えて普遍的に求められる『プログラミング的思考』を育むもの」としており、情報技術や情報活用能力を、専門知識としてではなく、すべての子供たちに必要な基礎として位置づけています。</p> <p>このようななか、子どもを持つ区民の間で、プログラミング教育に関心が高まっており、私たちのアンケートでは、小学校での必修化に77%の保護者が賛成し、66%がプログラミング教育を「論理的思考力や想像力を育む」ものと捉え、子どものうちから慣れ親しんで欲しいと考えています。</p> <p>同時に、プログラミングは子どもたちの主体的・対話的な学びを作り出すものです。教室に参加した子どもたちの88%が「楽しかった」「またやりたい」と回答しており、自然と友達と教え合い、楽しみながらプログラミングを学んでいます。</p> <p>また、地域の小学校などでの活動を通じてヒアリングを行った結果、プログラミングを体験・経験したことのある先生が大変少ないこともわかりました。必修化に際しては、プログラミングを教える側の人材不足が課題であり、人材育成が求められます。</p> <p>すべての子どもたちが、経済状況などに左右されず、等しくプログラミングを学ぶことができる機会が必要です。</p> <p>2020年を見据え、「教育先進都市・北区」にふさわしいプログラミング教育を地域のちからで創造していくことが、本事業の目的です。</p> <p>2 課題解決に対する区民ニーズ(課題として提起する根拠等)</p> <p>私たちの教室に子どもを参加させた経緯として、「習い事としては料金が高く、習わせられないでいた。自宅で教えるのも難しく、Eテレのプログラミングの番組を見たりしていた。1回500円と言う低料金で、場所も通いやすく、参加してよかった」との声が保護者から寄せられています。</p>
問題解決の手法	<p>1 問題解決の方策</p> <p>地域課題の解決に向け、以下の3事業を実施します。</p>

- ① プログラミング教育ボランティアの育成
- ② 学校や地域における無料プログラミング教室の開催
- ③ プログラミング・コンテストの実施

#### ●教育ボランティアの育成

地域に根差して小中学校を補助・補完し、北区全域でプログラミング教室を開催するための人材が、今後のプログラミング教育普及に向けた基礎となります。

プログラミング教育教材の活用方法をマスターし、教室を主催するボランティアを育成します。

#### ●プログラミング教室の開催

プログラミングは、パソコンとネットワークさえあれば、誰もが無料ではじめられ、教える事ができるものです。

子どもむけのプログラミング言語(アルファベットを使わない、ブロックを組み合わせるビジュアルなプログラミング言語)を使えば、小学生でもプログラミングを楽しみながら学ぶことができます。

地域のボランティアが中心となって、学校や、文化センター・児童館などで小中学生向けの無料のプログラミング教室を開催しながら、人材の育成と教育内容の拡充を図ります。

とりわけ、小中学校のパソコン室やICT機器を活用しての教室開催など、小中学校との連携の強化を図っていきます。

#### ●プログラミング・コンテストの実施

作成した作品をコンテストに応募することで、プログラミングを始めるきっかけ作りとし、学習意欲の向上を図ります。

同時に、地域が一体となって協働する場、プログラミングや情報技術に触発を受ける機会とし、地域全体の情報化推進とまちづくりにつなげていきます。

さらには、審査委員に大学やIT企業の参加を募り、産学の求めるプログラミングの実力評価・審査基準の開発に貢献し、これらの成果を、コンテストを通じて内外に発信します。

## 2 問題解決の独自性及び先駆性等

プログラミング教育の重要性は広く認識されていますが、具体的な取り組みは、全国的にも始まったばかりです。

小中学校、高校大学、NPO、ボランティアなど地域が一体となり、IT企業など産業界からの協力を得て行われるプログラミング教育への取り組みは、全国に先駆けるものとなり、北区独自の成果として、全国自治体の手本となり得る事業です。

	<p>3 想定される問題及び対策</p> <p>北区地域全域の啓もう、ボランティアの組織化、小中学校との連携、最新の技術を取り入れた教材開発など、限られた時間内での事業化には困難も想定されます。私たちのこれまでの北区での活動実績や、IT企業とのネットワークを活用することで、問題を解決していきます。当 NPO 法人が、地域、学校、企業などの橋渡し役となる事で協働事業を推進していきます。</p>
協働の必要性	<p>1 協働の必要性</p> <p>本事業は、プログラミング教育の必修化を見据え、地域と小中学校の連携・協働を深め、小中学校を補助・補完していく地域の教育体制作りを目指すものです。また、北区と東洋大のプログラミング教育分野における提携を活用していく観点からも、地域の教育行政との協働は必須です。</p> <p>2 協働の相乗効果</p> <p>区内小中学校などの教育機関、教育関連施設、保護者、区民ボランティアが、一体となってプログラミング教育に取り組むことは、区民自らが、情報化社会の発展を担うことであり、情報機器や情報技術を活用した、まちづくりにつながるものです。</p>
提案事業の内容 (個別事業ごとに記入)	<p>1 事業名</p> <p>(1)概要 (2)実施日程 (3)参加予定者 (4)実施場所 (5)予算額</p> <p>●教育ボランティア育成事業</p> <p>(1)概要 コンピュータやプログラミングに興味を持つ地域区民からボランティアを募り、プログラミング教育教材や、小中学校のパソコン室やICT機器の特徴や操作方法のトレーニングを行う。 その後は、地域でプログラミング教室を主催すると共に、小中学校から要請があれば ICT 機器の操作などで授業を補助する。</p> <p>(2)実施日程 4月～9月 期間中に合計6回開催</p> <p>(3)参加予定者 ボランティア希望者=20名×2回×3カ所 = のべ120名 トレーニングスタッフ3名×6回 = のべ18名</p> <p>(4)実施場所 文化センターおよび希望する区内小中学校</p> <p>(5)予算額 18万円</p> <p>●プログラミング教室の開催</p> <p>(1)概要 教育ボランティアを講師にして、区内の小中学生に向け、プログラミングやコンピュータサイエンスを学ぶ教室を開催する。</p> <p>(2)実施日程 7月～3月 のべ30回 (区内の3ヶ所程度で開催)</p>

	<p>(3)参加予定者  小中学生＝20名×30回＝のべ600名  教育ボランティア2名×30回＝のべ60名  補助スタッフ2名×30回＝のべ60名  (4)実施場所 区内小中学校および文化センター等  (5)予算額 132万円</p> <p>●プログラミング・コンテストの開催</p> <p>(1)概要  広く作品を募集し、優秀作品の審査を行う。表彰式には関係者が一堂に会して成果を確認し、内外へ発信する。</p> <p>(2)実施日程 12月～2月</p> <p>(3)参加予定者  作品応募・小中学生 100名  保護者・区民 200名  審査員 5名  スタッフ 12名</p> <p>(4)実施場所 北とぴあ つつじホール</p> <p>(5)予算額 61万円</p>
<p>提案事業と関連する活動実績及び団体の特長</p>	<p>1 提案事業に関連する活動実績  無料のプログラミング教育教材の調査・開発を行い、区内小学校、赤羽文化センター、北区民センターなどで、プログラミング教室の開催を定期的に行っています。</p> <p>2 提案事業に関連する、知識、技術、ノウハウ等(団体の特長)  当NPOには、IT企業の経営者や、大手IT企業の技術者・役員経験者が参加しており、実践的な最新のプログラミング技術とIT業界へのネットワークをもっています。また、職場等で各種セミナー・イベントを開催してきたノウハウも豊富です。</p> <p>3 個別事業に対する人的体制  事務局スタッフ  年度を通じて3名  ボランティア  講師として活躍12名  審査委員会  審査期間(1～2か月)を通じて5名  コンテスト当日  臨時スタッフ 9名</p>
<p>役割分担</p>	<p>1 提案団体が果たす役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教育教材の調査・開発</li> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ ボランティアと共に小中学校や文化センターでのプログラミング</li> </ul>

	<p>教室の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング・コンテスト事務局の運営と授賞式の開催</li> <li>・ 協賛・賞品提供企業の開拓と連絡調整</li> </ul> <p>2 区に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民に対する本事業の広報支援</li> <li>・ 区内の小中学校・教育関連団体との連絡調整</li> <li>・ 北区と東洋大学との教育分野における連携の活用</li> <li>・ コンテスト審査員・表彰者としての参加</li> </ul>
年間スケジュール	<p>4月～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ コンテストの実施要項決定</li> </ul> <p>7月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテストの宣伝及び作品募集</li> </ul> <p>10月～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテストの宣伝及び作品募集</li> </ul> <p>1月～3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテスト作品審査及び授賞式</li> </ul>
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「教育先進都市・北区」にふさわしいプログラミング教育のありかたを地域が一体となって創造する</li> <li>・ 将来を担う子どもたちの、プログラミングやコンピュータサイエンスを学ぶきっかけづくりと、学習意欲の向上</li> <li>・ 教育ボランティア・支援員の育成による地域学校教育の拡充</li> <li>・ 地域全体としてのプログラミング教育への理解向上。情報技術や情報機器活用能力の向上。ボランティア意識の向上</li> <li>・ 地域の小中学校・教育機関と区民との連携を中心とした、産学の協力による、まちづくりの推進。</li> <li>・ 「プログラミング教育なら北区が一番」との評価を内外に知らしめる</li> </ul>
他団体とのネットワーク(協力、共催等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北区の小中高校・大学との協力</li> <li>・ 文化センター、区民センター、児童館などの行政機関・教育関係機関との協力</li> <li>・ NPO、ボランティアおよび保護者(子育てママ・パパ)との協力</li> <li>・ IT企業の協賛や技術協力、賞品提供</li> </ul>
提案事業の実施年度以降の活動予定(□に✓を記入)	<p>提案事業を協働のモデル事業として継続を希望</p> <p>■する □しない</p> <p>2020年に向けた体制作りのため、継続を希望します</p>

※A4サイズ5ページ以内で、できるだけわかりやすく、具体的に記載してください。

継続計画書

提案事業名		
実施年度	平成 31 年度	平成 32 年度
提案事業の内容 (個別事業ごとに記入)	<p>1 事業名 (1)概要 (2)実施日程 (3)参加予定者 (4)実施場所 (5)予算額</p> <p>●教育ボランティア育成事業 (1)概要 教育ボランティアの育成</p> <p>(2)実施日程 4月～9月 期間中に合計6回開催 (3)参加予定者 ボランティア希望者=20名×2回×3カ所 = のべ120名 トレーニングスタッフ3名×6回 = のべ18名 (4)実施場所 文化センターおよび希望する区内小中学校 (5)予算額 18万円</p> <p>●プログラミング教室の開催 (1)概要 区内全域で、プログラミング教室を定期開催する。 (2)実施日程 2ヶ所×24回 = のべ48回 (3)参加予定者 小中学生=20名×48回 = のべ960名 ボランティア2名 × 48回 = のべ96名 補助スタッフ2名 × 48回 = のべ96名 (4)実施場所 区内小中学校および文化センター等 (5)予算額 139万円</p> <p>●プログラミング・コンテストの開催 (1)概要 プログラミング・コンテストの開催</p>	<p>1 事業名 (1)概要 (2)実施日程 (3)参加予定者 (4)実施場所 (5)予算額</p> <p>●教育ボランティア育成事業 (1)概要 教育ボランティアの育成</p> <p>(2)実施日程 4月～9月 期間中に合計6回開催 (3)参加予定者 ボランティア希望者=20名×2回×3カ所 = のべ120名 トレーニングスタッフ3名×6回 = のべ18名 (4)実施場所 文化センターおよび希望する区内小中学校 (5)予算額 18万円</p> <p>●プログラミング教室の開催 (1)概要 区内全域で、プログラミング教室を定期開催する。 (2)実施日程 2ヶ所×24回 = のべ48回 (3)参加予定者 小中学生=20名×48回 = のべ960名 ボランティア2名 × 48回 = のべ96名 補助スタッフ2名 × 48回 = のべ96名 (4)実施場所 区内小中学校および文化センター等 (5)予算額 139万円</p> <p>●プログラミング・コンテストの開催 (1)概要 プログラミング・コンテストの開催</p>



	<p>(2)実施日程 12月～2月</p> <p>(3)参加予定者 作品応募・小中学生 100名 保護者・区民 200名 審査員 5名 スタッフ 12名</p> <p>(4)実施場所 北とぴあ つつじホール</p> <p>(5)予算額 61万円</p>	<p>(2)実施日程 12月～2月</p> <p>(3)参加予定者 作品応募・小中学生 100名 保護者・区民 200名 審査員 5名 スタッフ 12名</p> <p>(4)実施場所 北とぴあ つつじホール</p> <p>(5)予算額 61万円</p>
事業の実施体制	<p>1 個別事業に対する人的体制</p> <p>事務局スタッフ 年度を通じて3名</p> <p>ボランティア 講師として活躍12名</p> <p>審査委員会 審査期間(1～2か月)を通じて5名</p> <p>コンテスト当日 臨時スタッフ 9名</p>	<p>1 個別事業に対する人的体制</p> <p>事務局スタッフ 年度を通じて3名</p> <p>ボランティア 講師として活躍12名</p> <p>審査委員会 審査期間(1～2か月)を通じて5名</p> <p>コンテスト当日 臨時スタッフ 9名</p>
役割分担	<p>1 提案団体が果たす役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教育教材の調査・開発</li> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ ボランティアと共に小中学校や文化センターでのプログラミング教室の開催</li> <li>・ プログラミング・コンテスト事務局の運営と授賞式の開催</li> <li>・ 協賛・賞品提供企業の開拓と連絡調整</li> </ul> <p>2 区に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民に対する本事業の広報支援</li> <li>・ 区内の小中学校・教育関連団体との連絡調整</li> <li>・ 北区と東洋大学との教育分野における連携の活用</li> <li>・ コンテスト審査員・表彰者としての参加</li> </ul>	<p>1 提案団体が果たす役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教育教材の調査・開発</li> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ ボランティアと共に小中学校や文化センターでのプログラミング教室の開催</li> <li>・ プログラミング・コンテスト事務局の運営と授賞式の開催</li> <li>・ 協賛・賞品提供企業の開拓と連絡調整</li> </ul> <p>2 区に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民に対する本事業の広報支援</li> <li>・ 区内の小中学校・教育関連団体との連絡調整</li> <li>・ 北区と東洋大学との教育分野における連携の活用</li> <li>・ コンテスト審査員・表彰者としての参加</li> </ul>
年間スケジュール	<p>4月～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテストの実施要項決定</li> </ul>	<p>4月～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテストの実施要項決定</li> </ul>

	<p>7月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテストの宣伝及び作品募集</li> </ul> <p>10月～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテストの宣伝及び作品募集</li> </ul> <p>1月～3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテスト作品審査及び授賞式</li> </ul>	<p>7月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア育成</li> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテストの宣伝及び作品募集</li> </ul> <p>10月～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテストの宣伝及び作品募集</li> </ul> <p>1月～3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教室開催</li> <li>・ コンテスト作品審査及び授賞式</li> </ul>
他団体とのネットワーク（協力、共催等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北区の小中高校・大学との協力</li> <li>・ 文化センター、区民センター、児童館などの行政機関・教育関係機関との協力</li> <li>・ NPO、ボランティアおよび保護者（子育てママ・パパ）との協力</li> <li>・ IT企業の協賛や賞品提供、技術協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北区の小中高校・大学との協力</li> <li>・ 文化センター、区民センター、児童館などの行政機関・教育関係機関との協力</li> <li>・ NPO、ボランティアおよび保護者（子育てママ・パパ）との協力</li> <li>・ IT企業の協賛や賞品提供、技術協力</li> </ul>
継続年度ごとの達成目標	<p>1 提案事業について 事業を定着させ、北区全域で、プログラミング教室を定期開催する。</p> <p>2 団体運営について 北区拠点2ヶ所以上でプログラミング教室を定期開催する体制を作る。</p>	<p>1 提案事業について 小中学校のICT活用をサポートする体制などを含め、北区のプログラミング教育基盤を確立する。</p> <p>2 団体運営について 教室の定期開催、ボランティア組織運営、小中学校との連携体制など、北区のプログラミング教育に恒常的に必要な運営体制を確立する。</p>

※A4サイズ3ページ以内で、現時点で予定している範囲で記載してください。

※最長3年間は、協働のモデル事業として実施することができます。ただし、継続の可否については、毎年検討します。

第1号様式の7(第4条関係)

収支予算書

団体名	NPO 法人プログラミング教育研究所
提案事業名	プログラミング教育の啓発事業

政策提案協働事業総予算額	2,115,000	円
政策提案協働事業総収入見込額	2,115,000	円
政策提案協働事業総支出見込額	2,115,000	円

項目		金額 (円)	算出根拠(単価×数量等)
収 入			
	北区負担金	2,115,000	
収入合計		2,115,000	
支 出	ボランティア育成事業		20名×6回
	会場利用料	11,700	1,950円×6回
	パソコン利用料	36,000	300円×20台×6回
	スタッフ人件費	54,000	3,000円×3名×6回
	通信費・資料代	60,000	500円×20名×6回
	印刷製本費	11,448	片面カラー3000部 5,724円×2回
	消耗品費	6,852	事務用品・インク代等
	小計	180,000	
	プログラミング教室開催		20名×30回
	会場利用料	58,500	1,950円×30回
	パソコン利用料	90,000	300円×20台×15回 ※1
	パソコン購入費	417,620	29,830円×14台 ※2
	プロジェクター	22,160	11,080×2台 ※2
	インターネット通信費	37,500	2,500円×15回 ※2
	スタッフ人件費	180,000	3,000円×2名×30回
	ボランティア講師謝金	180,000	3,000円×2名×30回
	通信費・資料代	300,000	500円×20名×30回
	印刷製本費	34,344	片面カラー3000部 5,724円×6回
	消耗品費	4,876	事務用品・インク代等
小計	1,325,000		
			※1: 赤羽文化センター実施分 ※2: パソコン設備の無い会場での実施分

コンテスト作品審査		5名×4回
会場利用料	7,800	1,950円×4回
スタッフ人件費	24,000	3,000円×2名×4回
審査員謝金	120,000	6,000円×5名×4回
通信費・資料代	10,000	500円×5名×4回
消耗品費	8,200	事務用品・インク代等
<b>小計</b>	<b>170,000</b>	
コンテスト授賞式		
会場利用料	100,000	北とぴあ つつじホール(終日)
事務局人件費	54,000	3,000円×3名×6回(作品審査期間含む)
スタッフ人件費	40,500	4,500円×9名
審査員謝金	50,000	10,000円×5名
通信費・資料代	90,000	300円×300名
ポスター・チラシ	50,000	デザイン・印刷を含む
参加賞品	50,000	500円×100名
消耗品費	5,500	事務用品・インク代等
<b>小計</b>	<b>440,000</b>	
<b>支出合計</b>	<b>2,115,000</b>	_____

添付書類

- 1 積算の根拠書類を添付してください。(単価表、見積書等)
- 2 受益者負担がある場合、その根拠となる資料、同種事業の実績等がわかる資料

第1号様式の8(第4条関係)

継続収支予算書

平成 31 年度	
団体名	NPO 法人プログラミング教育研究所
提案事業名	プログラミング教育の啓発事業

政策提案協働事業総予算額	2,185,000	円
政策提案協働事業総収入見込額	2,185,000	円
政策提案協働事業総支出見込額	2,185,000	円

項 目		金 額 (円)	算出根拠(単価×数量等)
収 入			
	北区負担金	2,185,000	
収入合計		2,185,000	
支 出	ボランティア育成事業		20名×6回
	会場利用料	11,700	1,950円×6回
	パソコン利用料	36,000	300円×20台×6回
	スタッフ人件費	54,000	3,000円×3名×6回
	通信費・資料代	60,000	500円×20名×6回
	印刷製本費	11,448	片面カラー3000部 5,724円×2回
	消耗品費	6,852	事務用品・インク代等
	小計	180,000	
	プログラミング教室開催		20名×48回
	会場利用料	93,600	1,950円×48回
	パソコン利用料	144,000	300円×20台×24回 ※1
	インターネット通信費	60,000	2,500円×24回 ※2
	スタッフ人件費	288,000	3,000円×2名×48回
	ボランティア講師謝金	288,000	3,000円×2名×48回
通信費・資料代	480,000	500円×20名×48回	
印刷製本費	34,344	片面カラー3000部 5,724円×6回	
消耗品費	7,056	事務用品・インク代等	
小計	1,395,000		
			※1: 赤羽文化センター実施分 ※2: パソコン設備の無い会場での実施分

コンテスト作品審査		5名×4回
会場利用料	7,800	1,950円×4回
スタッフ人件費	24,000	3,000円×2名×4回
審査員謝金	120,000	6,000円×5名×4回
通信費・資料代	10,000	500円×5名×4回
消耗品費	8,200	事務用品・インク代等
<b>小計</b>	<b>170,000</b>	
コンテスト授賞式		
会場利用料	100,000	北とぴあ つつじホール(終日)
事務局人件費	54,000	3,000円×3名×6回(作品審査期間含む)
スタッフ人件費	40,500	4,500円×9名
審査員謝金	50,000	10,000円×5名
通信費・資料代	90,000	300円×300名
ポスター・チラシ	50,000	デザイン・印刷を含む
参加賞品	50,000	500円×100名
消耗品費	5,500	事務用品・インク代等
<b>小計</b>	<b>440,000</b>	
<b>支出合計</b>	<b>2,185,000</b>	_____

添付書類(現時点で計画している範囲で結構です)

1 積算の根拠書類を添付してください。(単価表、見積書等)

2 受益者負担がある場合、その根拠となる資料、同種事業の実績等がわかる資料

※継続年度ごとに作成してください。

第1号様式の8(第4条関係)

継続収支予算書

平成 32 年度	
団体名	NPO 法人プログラミング教育研究所
提案事業名	プログラミング教育の啓発事業

政策提案協働事業総予算額	2,185,000	円
政策提案協働事業総収入見込額	2,185,000	円
政策提案協働事業総支出見込額	2,185,000	円

項 目		金 額 (円)	算出根拠(単価×数量等)
収 入			
	北区負担金	2,185,000	
収入合計		2,185,000	
支 出	ボランティア育成事業		20名×6回
	会場利用料	11,700	1,950円×6回
	パソコン利用料	36,000	300円×20台×6回
	スタッフ人件費	54,000	3,000円×3名×6回
	通信費・資料代	60,000	500円×20名×6回
	印刷製本費	11,448	片面カラー3000部 5,724円×2回
	消耗品費	6,852	事務用品・インク代等
	小計	180,000	
	プログラミング教室開催		20名×48回
	会場利用料	93,600	1,950円×48回
	パソコン利用料	144,000	300円×20台×24回 ※1
	インターネット通信費	60,000	2,500円×24回 ※2
	スタッフ人件費	288,000	3,000円×2名×48回
	ボランティア講師謝金	288,000	3,000円×2名×48回
	通信費・資料代	480,000	500円×20名×48回
印刷製本費	34,344	片面カラー3000部 5,724円×6回	
消耗品費	7,056	事務用品・インク代等	
小計	1,395,000		
			※1: 赤羽文化センター実施分 ※2: パソコン設備の無い会場での実施分

コンテスト作品審査		5名×4回
会場利用料	7,800	1,950円×4回
スタッフ人件費	24,000	3,000円×2名×4回
審査員謝金	120,000	6,000円×5名×4回
通信費・資料代	10,000	500円×5名×4回
消耗品費	8,200	事務用品・インク代等
<b>小計</b>	<b>170,000</b>	
コンテスト授賞式		
会場利用料	100,000	北とぴあ つつじホール(終日)
事務局人件費	54,000	3,000円×3名×6回(作品審査期間含む)
スタッフ人件費	40,500	4,500円×9名
審査員謝金	50,000	10,000円×5名
通信費・資料代	90,000	300円×300名
ポスター・チラシ	50,000	デザイン・印刷を含む
参加賞品	50,000	500円×100名
消耗品費	5,500	事務用品・インク代等
<b>小計</b>	<b>440,000</b>	
<b>支出合計</b>	<b>2,185,000</b>	_____

添付書類(現時点で計画している範囲で結構です)

1 積算の根拠書類を添付してください。(単価表、見積書等)

2 受益者負担がある場合、その根拠となる資料、同種事業の実績等がわかる資料

※継続年度ごとに作成してください。